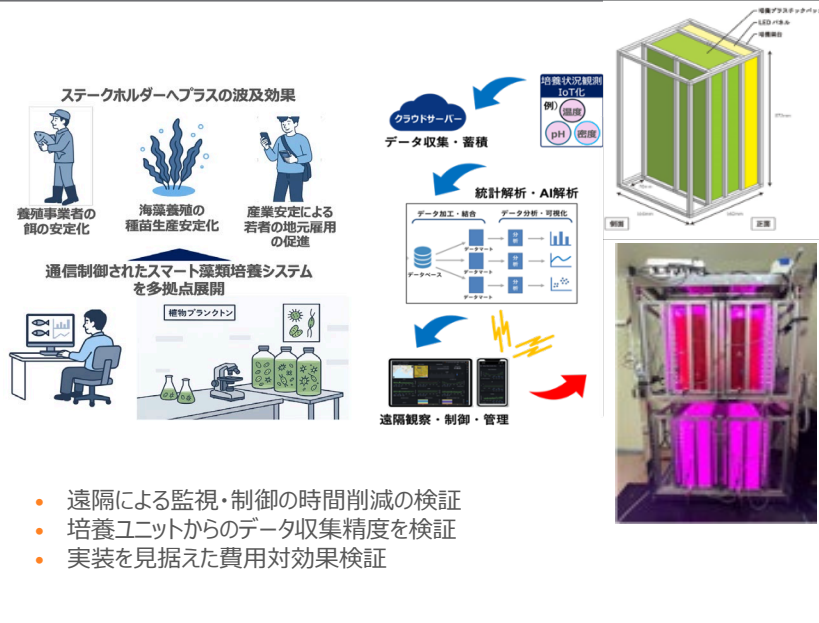


水産事業者の課題を次世代通信の利用で解決するスマート藻類培養システム

実施体制 <small>(下線：代表機関)</small>	株式会社リブル、株式会社アイエスイー、KDDI株式会社、株式会社オーエフラボ、志摩市	実施地域	徳島県阿南市、三重県志摩市
目標	<ul style="list-style-type: none"> ▶ スマート微細藻類培養システムの導入による非熟練者でも可能な藻類培養の実現 ▶ 藻類を活用した人工種苗購入コストの削減から水産養殖業の成長促進を実現 	通信技術	Wi-Fi HaLow
実証課題	牡蠣養殖など水産養殖の安定した事業継続には人工種苗の安定取得が欠かせないが、コスト負担が大きく、藻類培養に精通していない場合、安定的な生産は難しいという課題が存在		

実証の概要



実証の結果・考察

「※」は、実証の結果欄に経緯の記載がないため、成果報告書「実装・横展開に向けた準備状況」を参照のこと

実証結果

- 【1】遠隔による監視・制御の時間削減（通信機能の活用）
 - 目標：確認や制御にかかる時間を50%以上削減する
 - 結果：作業時間を50%以上させることができた
- 【2】培養ユニットからのデータ収集精度（通信の安定性）
 - 目標：通信エラーによるデータ収集不可回数を0にする
 - 結果：通信エラーによるデータ欠損は記録されなかった
- 【3】実装を見据えた費用対効果検証（顧客満足）
 - 目標：実装費用のコスト負担感を確認
 - 結果：実装費用以上の実益創出を実現
 - 目標：遠隔による支援で自立生産ができるか
 - 結果：遠隔からの監視と管理、指示による生産を実現

実装の課題と解決時期

- 2026年2月時点で徳島、三重共に実装済み

横展開の課題と解決時期

- 量産/サービス体制の構築 (解決の目途：2026年5月)
- 関連知財の整理 (解決の目途：2026年6月)
- 予算の確保(解決の目途：2026年8月)

実装・横展開に向けたスケジュール

実装 (-2026年2月)

- 2026年2月時点で徳島、三重に実装済み

横展開 (2026年8月~)

- 課題を抱える沿岸自治体、漁協、漁業者への多地域展開
- 培養支援サービスの実装
- 顧客からのフィードバックを反映したシステム改良